

学校教育高度化センター主催シンポジウム
「新たなカリキュラムの形成」 2010.09.11

キャリア教育の課題 —働くことを見つめ直す

教育学研究科臨床心理学コース
高橋 美保

キャリア教育とは

- キャリアとは

個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖およびその過程における自己と働くこととの関係付けや価値づけの累積

(文科省「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引き, 2006」)

- キャリア教育とは

児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育

従来のキャリア教育の課題

1. 働き方の多様化や高学歴化, 流動化という社会的・経済的状況において, 自分の道を自分で切り開く必要
2. 経済のグローバルな競争に負けない子どもよりも, むしろ負けても何とか生きていけるような子どもを育てる必要
3. 職業 = 自己実現の呪縛にとらわれてしまうことの危惧
4. 将来就きたい具体的な夢や職業を, 高校生の段階で決めることは難しい

社会の現実

- 厳しい社会の現実

新卒者の内定率の低下、早期離職者の増加
失業率の増加、非自発的離職者数の増加
労働者のメンタルヘルス問題の深刻化

- 児童・生徒への影響

「将来の夢を持っていますか？」

⇒当てはまる 小学生 67.7%、中学生 43.2%

「高校生が進路を考えるときの気持ち」

自分の可能性が広がるようで楽しい 24.0%

自分がどうなってしまうのか不安になる 48.7%

失業研究から

- 働くことに注目した研究から得られた働くことの意味
就労の顕在的機能
(意図されるもの)

①経済性
②義務感

} 手段

③社会的価値
④自己実現
⑤帰属性

} 目的

- 失業研究から得られた働くことの意味

就労の潜在的機能

(意図されないもの)

①習慣的な時間構成

②人生における目的

③社会的接触

④地位とアイデンティティ

⑤日々のルーティンな活動

⑥社会からの信用

健全な社会生活を送る
ために必要なこと

従来のキャリア教育の課題 — 本研究の提言

1. 働くことを前提としたキャリア教育への警鐘
望ましい職業観・勤労観を求める → 国策
人は働くべき、働かざる者食うべからず
→ 文化・社会的な価値観
- しかし、働きたくても働けない人、実は働きたくない人もいる
望ましい職業観・勤労観を求められても、実現できない、
実現したいわけでもない

職業選択(何になりたいのか)の前段階の問題
→そもそも働かなければならないのか、どう働くのか

2. 夢や自己実現、労働の美德の過度な強調への警鐘

- 働いている場合

満足している: 働きすぎ、成果主義、上昇停止症候群

満足していない: 自己実現ができない、夢が叶わない

- 働いていない場合

自分はだめな人間だ、生きる価値がない

いずれもメンタルヘルスの問題につながる可能性

キャリア教育の新しい視点

常に、すべての人が望み通りの就職ができるわけではない

→ 早期離職、労働者のメンタルヘルスの悪化

また、仕事をしていればそれだけで幸せというわけでもない

→ 長時間労働

→ では、どうやって仕事をしていけばよいのか？

1. 現実を知る教育の必要性
2. 健全に働き続けるために

1. 現実を知る教育の必要性

- ①働くのは当然→ なぜ働かなければならないのか
- ②何になるか(職業選択)→ どう働くか(職業、稼ぎ方、働き方)
- ③どうしたら働くことができるのか→ 人間性?、スキル?

2. 健全に働き続けるために

- ①認知の偏り
- ②キャリアからライフキャリアへ

社会に期待したいこと

- 臨床心理学の限界

新卒一括偏重の採用、OJTの偏重の育成という現実

→ 産業界と教育界の理解と協力

流動性、移動性を高める → 生涯教育の実現

働くこと → 産業界

教育機関の卒業

学ぶこと → 教育界

現在進行中の研究

- 研究の目的:

今後のキャリア教育ならびに若者の発達支援・心理的援助に役立つ知見を得ることを目的に、働くことと表裏一体にあるものとして失業を提示し、失業者に対する意識に着目したキャリア教育の効果を検討する

- 研究の独自性:

1. 失業を切り口とする
2. 職業領域以外の幅広い視点からキャリアを捉える
3. 実際の高校生の実態に即した現場におけるニーズに基づいて企画する

研究の概要

- 調査時期：2010年6月－2011年3月
- 調査対象：実験群；高校3年生40名，統制群；高校3年生80名
実験授業内容：①働くことについての授業(50分×2)
②失業を切り口とした授業(50分×2)
- 調査内容：働くことについてなど、質問紙および自由記述調査
実験群：授業実施1ヵ月前、第1回授業後、第2回授業後
統制群：実験群の第1回授業後、第2回授業後と同時に実施
授業の効果測定：働くことへの理解の深まり、授業の理解度

結果は、現在分析中です